

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成21年4月2日(2009.4.2)

【公表番号】特表2008-527031(P2008-527031A)

【公表日】平成20年7月24日(2008.7.24)

【年通号数】公開・登録公報2008-029

【出願番号】特願2007-551735(P2007-551735)

【国際特許分類】

C 0 7 D 471/04 (2006.01)

A 6 1 K 31/437 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

A 6 1 P 11/06 (2006.01)

A 6 1 P 11/00 (2006.01)

A 6 1 P 1/04 (2006.01)

A 6 1 P 29/00 (2006.01)

A 6 1 P 25/06 (2006.01)

A 6 1 P 25/04 (2006.01)

A 6 1 P 21/00 (2006.01)

A 6 1 P 31/12 (2006.01)

A 6 1 P 31/04 (2006.01)

A 6 1 P 31/10 (2006.01)

A 6 1 P 15/08 (2006.01)

A 6 1 P 17/02 (2006.01)

A 6 1 P 1/02 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 P 9/10 (2006.01)

A 6 1 P 19/06 (2006.01)

A 6 1 P 19/02 (2006.01)

A 6 1 P 13/02 (2006.01)

A 6 1 P 27/02 (2006.01)

A 6 1 P 17/04 (2006.01)

A 6 1 P 17/06 (2006.01)

A 6 1 P 3/10 (2006.01)

A 6 1 P 25/28 (2006.01)

A 6 1 P 37/02 (2006.01)

A 6 1 P 37/08 (2006.01)

A 6 1 P 11/02 (2006.01)

A 6 1 P 19/10 (2006.01)

【 F I 】

C 0 7 D 471/04 1 0 4 Z

C 0 7 D 471/04 C S P

A 6 1 K 31/437

A 6 1 P 43/00 1 1 1

A 6 1 P 11/06

A 6 1 P 11/00

A 6 1 P 1/04

A 6 1 P 29/00

A 6 1 P 25/06

A 6 1 P 25/04

A 6 1 P 21/00  
A 6 1 P 31/12  
A 6 1 P 31/04  
A 6 1 P 31/10  
A 6 1 P 15/08  
A 6 1 P 17/02  
A 6 1 P 1/02  
A 6 1 P 35/00  
A 6 1 P 9/10 1 0 1  
A 6 1 P 19/06  
A 6 1 P 19/02  
A 6 1 P 29/00 1 0 1  
A 6 1 P 13/02  
A 6 1 P 27/02  
A 6 1 P 17/04  
A 6 1 P 17/06  
A 6 1 P 3/10  
A 6 1 P 25/28  
A 6 1 P 37/02  
A 6 1 P 37/08  
A 6 1 P 11/02  
A 6 1 P 9/10  
A 6 1 P 19/10

【手続補正書】

【提出日】平成21年2月9日(2009.2.9)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項33

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項33】

MAPEGファミリーメンバーが、ミクロソームプロスタグランジンEシンターゼ-1、ロイコトリエンC<sub>4</sub> シンターゼ及び/又は5-リボキシゲナーゼ活性化タンパク質である、請求項32に記載の使用。

【手続補正2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項38

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項38】

MAPEGファミリーメンバーが、ミクロソームプロスタグランジンEシンターゼ-1、ロイコトリエンC<sub>4</sub> シンターゼ及び/又は5-リボキシゲナーゼ活性化タンパク質である、請求項37に記載の方法。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0108

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0108】

本発明の化合物は、例えば、*Eur. J. Biochem.*, 209, 725-734 (1992)に記載されているような試験において示されるように、ロイコトリエン $C_4$  (LTC $_4$ )の活性を阻害し得、よってLTC $_4$ の阻害が必要とされる症状の治療に有用であり得る。本発明の化合物はまた例えば*Mol. Pharmacol.*, 41, 873-879 (1992)に記載されているもののような試験において示されるように、5-リポキシゲナーゼ活性化タンパク質(F LAP)の活性を阻害しうる。

よって、本発明の化合物は、炎症の治療に有用であることが期待される。